

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東淀川区
学校名	大阪市立豊新小学校
学校長名	尾崎 士郎

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立豊新小学校では、第6学年 75名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果、本校の国語科は平均正答率65%で、大阪市平均と同等だったが、全国平均より1.8ポイント下回った。一方、算数科はこれまで5年以上、全国・大阪市平均を下回っていたが、研究教科として3年間取り組んできた成果が表れ、平均正答率60%と全国・大阪市平均を上回った。特に「数と計算」の領域では全国平均を4.3ポイント上回るなど、全ての領域で全国・大阪市平均を上回る結果となった。今後も、児童一人ひとりのつまずきを丁寧に分析し、それぞれに応じた課題を与える指導を継続していく。さらに、反復学習を重ねることで確実な習熟を図り、学力向上を目指していく。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

「話すこと・聞くこと」では全国平均を下回ったが、大阪市平均を0.6%上回った。「読むこと」では全国・大阪市の両方の平均を2ポイント以上、上回っている。授業の工夫や学習者用端末の活用により、文章を読み考えを伝え合う活動が充実している成果といえる。一方、「書くこと」については全国・大阪市平均を下回った。書く力は思考力を広げるための基盤であり、探究的な学習を支えるためにも必要なものである。

【算数】

「図形」の領域では大阪市平均を0.1%下回ったが、それ以外の領域では全国・大阪市平均を上回った。図形の問題では、変化や規則性を読み取ることが難しいと感じている児童が多いと考えられる。「数と計算」では全国・大阪市平均を上回り、基礎的な計算力が身についていることが分かる。しかし、意識調査の結果から算数に苦手意識を持つ児童が多いことも明らかになった。

【理科】

A領域（エネルギー・粒子）は全国・大阪市平均を下回ったが、B領域（生命・地球）は平均と同程度であり、比較的興味を持って取り組んでいる様子がうかがえる。ただし、「理科の学習は好きですか」という質問では全国・大阪市平均より3ポイント以上低く、理科に対し苦手意識を持つ児童が多いことが分かった。

質問調査より

本校児童は「自分には良いところがある」と答えた割合が82.6%で、全国や大阪市の平均を下回っており、自己肯定感の低さがうかがえる。また、家庭学習の割合が低い傾向にあり、学習面においても自信を持てない様子が見られる。このことから、学習習慣は全体的に低い水準にある。一方で、「いじめはどんな理由があってもあってはいけない」と答えた児童の割合は全国や大阪市平均を上回っており、命の尊さについてはよく理解できている児童が多い。

今後、児童の苦手意識が強い教科において自信を育て、進んで学習に取り組む意欲を育成していくことが課題である。そのために、一時間一時間を大切にした授業の充実を図るとともに、反復学習などの補充的な学習や家庭学習の啓発を進め、学力の定着につなげていく。

今後の取組(アクションプラン)

○ねらいを明確に示し、すべての児童が主体的に参加できるよう工夫した導入を行う。また、児童の考えを引き出す発問や、学習内容を振り返ることのできる板書計画を整え、自ら学習をまとめる力を育成するなど、授業改善を進め、指導力の向上を図る。

○習熟度別授業をはじめとした少人数指導の拡充を進め、個に応じた指導の充実を目指し、指導方法の改善に努める。

○学習教材データ配信アプリ「ロイロノート」等を活用し、各教科における基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、考え方や意見を伝え合う話し合い活動や、書く習慣を付ける活動を授業に取り入れ、学習内容の活用につなげる。

これらの取組を通して、主体的で対話的な深い学びを推進するとともに、励ましや称賛、発言する機会を意図的に増やす等して、学ぶことの愉しさを児童が実感できる授業づくりを進めていく。

